

# 解説 「やまがた花笠プラン Since2011」

～研究ビジョン策定委員会～

## ともに（協働）

### ○経営スタッフとして

- 学校教育目標の達成をめざし、私たち事務職員が果たすべき役割（事務職員の仕事が学校の中でどのようにかかわり合っているかを意識し）と真摯に向き合い、誠実に職務を遂行します。
- 組織の一員であることを自覚し、行政職スタッフとして学校経営に参画し、互いに補い合いながらよりよい学校づくりのために協力していきます。

### ○思いの共有

- 子どもたちの育ちのために、子どもが望んでいること、学校の思い、家庭や地域の願いを理解し尊重し、ともに協力していきます。
- 子ども、学校、家庭、地域、それぞれが抱えている課題を理解し共有し、その解決に向けて取り組みます。

### ○子どもたちの育ちを確かめながら

- 目の前にいる子どもたちの毎日の生活や学校での様子をよく見ることで、具体的に今何が必要なのかが見えてきます。子どもたちの動きを見ながら危険を予測し、声を聴きながらニーズを捉え、効果的な予算執行と教育環境の整備を行ないます。

## かかわり（連携）

きめ細やかな教育を行うためには、同じ職場で働く職員同士のかかわりが大変重要です。また、家庭や地域とよりよい関係を築くことや、他の学校や教育関係機関と手を携えることも大切です。それぞれの立場からお互いに（双方向に）かかわりを持つことにより、学びの環境をさらにきめ細やかで充実したものにすることができます。職員同士、家庭、地域、学校間、教育関係機関等と、日頃からのかかわりを大切にしたいネットワークづくりに努めます。



## つなぐ（調整と継承）

### ○学校と家庭そして地域を

- ・ 集金事務とおした家庭との連絡調整、PTA活動の予算や日程調整、就学援助事務をおしたの家庭や地域（民生委員等）との連絡調整、地域の人材との連絡調整等、学校と家庭、地域をつなぐ役割を担います。

### ○情報の収集と活用そして発信

- ・ 情報の窓口としての一翼を担い、必要な情報を収集・分析・管理し、学校経営に活かします。そして学校の考えや子どもの様子など正確な情報を適時に適切に発信します。

### ○先輩から後輩へ思いと実践の継承

- ・ 単数配置が多いため、職場内で実践を研修するのは難しい状況です。いろいろな機会をおして、これまで培ってきた学校事務職員としての思いと実践を、後輩事務職員に伝えていきます。また、仕事に対する思いや姿勢を経験豊富な先輩方から積極的に学んでいきます。



### ○子どもたちのために一歩先へ

- ・ 「全ては、子どもたちの笑顔のために」こんなことができたなら…、こんなことをやってみては…、そんな思いを実現するために勇気を出して一歩踏み出します。
- ・ 子どもたちが今、どんな学習をしているのか。教材は何を使っているのか。授業を参観し、実際に観て、聴いて、触れて考えていきます。学習教材に無駄はないか。学校徴収金は本当にこの金額で妥当か。前年度踏襲でなく常に見直しの意識で対応します。

### ○時代を感知するアンテナをもとう

- ・ 「今、学校に何が求められているのか」そのニーズを全身で感じ、受け止めながら学校事務を遂行します。
- ・ 今までの考え方ややり方にとらわれることなく、基本を大事にしながらも常に新しい情報の収集に努め、時代にあった学校事務を展開します。

### ○子どもたちの学びの時間を確保するために

- ・ 子どもたちが学校にいる限られた時間の中で、しっかりと学びの時間を確保できるように努めます。教員に時間的なゆとりが生まれれば、子どもたちへの教育活動の時間として還元されます。私たち学校事務職員が校務分掌に積極的にかかわることで、子どもたちの学びの時間を増やすことができます。
- ・ 校内での分掌をお互いに補い協力しながら、同僚性、協働性を高め、よりよい分担のもと、効率的な分掌業務を提案します。



## 創造的な学校事務への挑戦(自己変革)

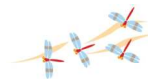


- 「自己変革」とても重く感じる言葉ですが、少し目先を変えるだけでベクトルは大きく変化していきます。ふとした思いつき、出来事から何かを感じ取る力をつけていきます。待っているだけでは何も見えてきません。子どもたちと話をする、校内外巡視をする、授業をのぞいてみる、学年の行事に参加する、整理整頓をする。新たな気持ちで毎日できることから取り組みます。
- 自分の仕事を創造的視点で捉えなおすことから始めます。教育課程の編成やそれを実践する中で、他の職員と協働することにより、新たな視点を発見することができます。
- これまでつくり上げてきた学校事務を受け継ぎながらも、自分が目指す学校事務の在り方を純粋な気持ちで見つめ直し、新たに創造していきます。

### 『学習指導要領を理解し、 教育活動の充実と活性化に貢献する 学校事務を創造しよう』

学習指導要領の理解に努め、行政職としての視点を活かし、教育課程の編成に積極的にかかわります。

どんな施設設備、どんな機器、どんな教材を望んでいるかを把握し、必要な情報を提供したり、行政職の立場からの考えを伝えるなど、よりよい整備ができるように提案していきます。





## そのために次の1から6の実践に取り組みます



### 1、財務からのかかわりや実践を通し、学校経営に積極的に参画していこう

- すべての教育活動に財務が深くかかわっています。教育課程を把握し、財務情報を適時に適切に発信し、担当者と連携しながら、学校経営に積極的に参画していきます。
- 財務面から子どもたちの学びを保証するために、教育活動の限られた予算を有効に運用します。また、教育目標達成に向けた予算要求を積極的に提案します。

### 2、危機管理意識を持ち、安心・安全な教育環境づくりに主体的に取り組もう

- 「教育環境整備」「情報管理」には細心の注意をはらいます。常に危機管理意識を持ち、子どもたちが安心して学習や生活を送れるよう、そして職員が安心して教育活動を行えるように安全な教育環境づくりに主体的に取り組みます。
- 災害時の避難所となることを想定し、関係機関と連携しながら予算要求等を行い、施設設備備品の整備に取り組みます。また関係機関・関係職員と協働し、児童生徒の安全確保を含め避難所としての機能が果せる「災害時行動マニュアル」の整備に努めます。

### 3、情報を的確に判断し、適切な発信をしよう

- 多種多様な情報を的確に取捨選択し、相手に合わせた情報を適切な時期をとらえて発信していきます。
- 必要な情報を適切に発信し、信頼される学校づくりに寄与します。
- 教員とは異なる目線で得た子どもたちの表情や言動等の情報を提供し、学校全体で子どもたちを見守ります。

### 4、事務職員間の連携を強め、学校事務の協働を推進しよう

- みんなで創り上げる山形県の学校事務。事務の遂行がスムーズにいくように、まずは身近な隣接校から互いに情報交換を行います。さらに中学校区グループや端末校グループ等の小規模グループでチームワークを強め、情報の共有化を図り、効率的な学校事務を推進します。

### 5、研修の機会を自ら求め学び合い、学校事務のスペシャリストになろう

- 現状維持にとどまらず、自己研鑽のため、研修の機会を自ら求め学んでいきます。
- 法令や条令に精通し、新しい考えや方法・全国の動向を学ぶことで、仕事の質のレベルアップを目指します。一人ひとりが常に新しい風を取り入れ、自らのスキルを高めます。

### 6、現状を見つめ、常に考え、時代のニーズに応えられる学校事務を実践しよう

- 学校のおかれている状況、子どもたちの様子、家庭環境、地域活動、子どもたちを取り巻く現状を見つめ、今どんなことが求められているのかを把握し、何をしなければならないのかを考え、その時々々のニーズに的確に応えられる学校事務を実践します。
- 前年度踏襲…ではなく工夫改善した提案をします。常に探求心を持って臨み、現状に満足せず、その先にあるものを見据えてその時々に対応できる学校事務を実践します。

